

まつうらさんと たびするほん5

クスリ〜アカン〜マシウ
〜クッチャロ〜トーロ
〜トーベツ〜ノツケルト

タケシロードツアー-G



こんかい とうじょうする おもなちめい



ぜんかいのあらすじ



セツカウシ(トック)
なんどもまつうらさんを
たすけている
新十津川の金滴酒造前に
家があった

まつうらたけしろう
松浦武四郎
やうんもしりの内陸を
しらべるために冬の
ちようさをけっこう

いいたよめすけ
飯田豊之助
村垣おぶぎょうの
ぶか
今の国道36号を
つくった

安政5(1858)年、夏では歩けないヤウンモシリの内陸を調査。
するため、なんと雪がつもっているうちに出勤した。
中山峠をこえて、和入ではじめて定山溪おんせんにつかり、
サッポロを調査。旭川から狩勝峠をこえて、和入ではじめて
十勝れんぼうをせいはした。
乗にむかったまつうらさんに、こんどはどんなこんなんが
まちうけるのか!?



*ニシハロとは... あうえの皮と、えらい皮と

安政5(1858)年3月24日 クスリ(釧路)
まつうらさんは、ナイボソたち10人のアイヌのみなどと調査
にしゅっぱつしようとしていた。
まつうらさんは、大好きないり豆をたべながらもふきげんだ
った。なぜこうなったかといえど...

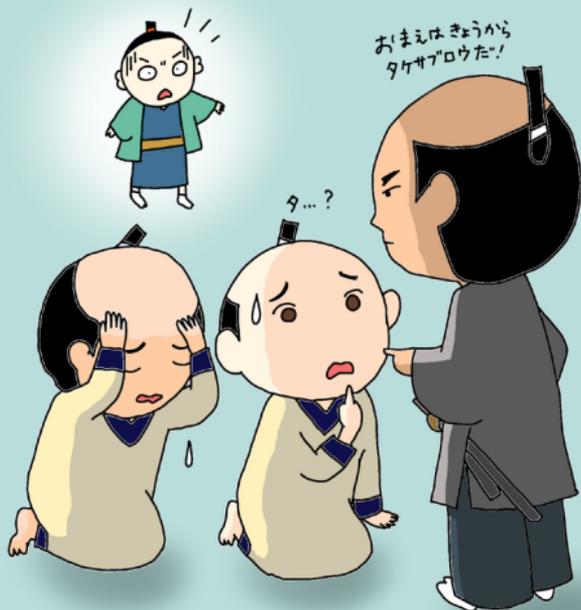


3月22日 クスリ会所（釧路市南大通）※会所…漁や商いをするところ
 さかのぼること2日前。
 クスリについたまつうらさんは、大好物のいり豆をたべていた。
 クスリはたくさん家があつて、漁業でにぎわっていた。
 まつうらさんは、「ここは将来ヤウンモシロの中でもじゅうよう
 な都市になるぞ〜」とつぶやいた。そのとき…



あらわれたのは、クスリの役人「おだい」だった。
 「ビホロ、アバシリ探険にはこれまで成功したことがないので、ぜひつれていってください!」と、まつうらさんにおねがした。
 じつは、まつうらさんは、このおだいに対して良い印象をもっていなかった。

おぼろげな
 小田井蔵次



このころ、えとぼくふはアイヌが和風わふうにすることをすすめていた。まつうらさんは、おだいがクスリでたくさんのアイヌにたいして、むりやり髪型や名前を和風わふうにしていると、うわさに聞いたのだった。
 今回こんかい、それをたしかめて、うわさが本当ならやめさせなくてはならないと思っていたんだ。



一豆をあとされたから
 おこってるわけじゃないぞ!!

「アイヌのみんながしきたりや生活を和風わふうにするのは良いけど、それはあくまでアイヌ自身おんみづかみがえらぶことなんだ。アイヌのしきたりや生活を守りたい人しんじをむりやり和風わふうにするのは、やってはいけないことなんだ！堀おぶぎょうたち（1～3巻をよもう）だってそう思っているぞ！」

ためしよみ

は

ここまでです